

地域支援だより



# スマイルサポート



No. 5 令和4年2月28日発行

## 障害理解授業～ゲストティーチャー～の活動を紹介します

今年度もコロナ禍ではありましたが、感染症予防対策を十分に行い、時期を工夫しながら、小・中学校と居住地校交流を行いました。交流相手校での事前学習では、本校職員がゲストティーチャーとして訪問し、障害理解授業を行っています。学年ごとに積み重なっていくよう内容を工夫していることもあり、毎年希望する学校が増えてきており、とてもうれしく感じています。

今回は、小・中学校でどのような内容での障害理解授業を行っているかを紹介します。

### 【障害理解授業の内容】

- ① 比内支援学校について(行事や学習の様子など)
- ② 在籍する児童生徒の皆さんのこと(どんなことで困り感を感じやすいのか)
- ③ 交流する児童生徒のこと、仲良くするためのポイント
- ④ 体験活動 ※学年によってレベルアップしていくよう活動内容を変えています。



- 相手と息を合わせる体験  
「フラフープの上げ下ろし」(小学校低学年)  
「フラフープリレー」「ペンの上げ下ろし」「音を一つに」(小学校中高学年～)
- 相手の気持ちを想像しながら課題解決していく体験(小学校高学年～)  
「テレパシーゲーム」「ノンバーバルコミュニケーションゲーム」
- 言葉の掛け方の違いでどう感じるかの体験(中学校1年～)  
「ネガティブな言葉・やさしい言葉」
- 見えない困った思いがある人の疑似体験(読む・書く・感じ方)(中学校2年～) …など



↑「音を一つに」

友達と向き合い、目を閉じて、相手と両手タッチをします。ぴったり合うよう、相手がどの位置に手を伸ばすかを集中して考えます。

友達と向き合い、ペンを指先で挟みます。声を掛け合いながら相手の動きに合わせて、ペンを落とさないよう上下に動かします。



↑「ペンの上げ下ろし」

### 児童生徒からの感想



人は一人一人違うということを知れたので、助け合いながらお互いに頑張っていけたらいいなと感じました。



言葉の掛け方で気持ちが大きく変わることや、人と気持ちがそろった時の楽しさを知りました。

交流を行っている学校ではもちろん、まだ交流を行っていない学校でも、希望に応じて障害理解授業を行っています。内容は体験活動を中心に、児童生徒の実態に合わせて変えながら実施しています。ぜひ来年度も、ゲストティーチャーを御活用ください。

居住地校交流に関わってくださる担任の先生方には、たくさんの御協力をいただきありがとうございました。

# 高等学校の通級による指導～大館鳳鳴高校定時制～

通級による指導は、小・中学校においては平成5年から開始されていますが、高等学校においても平成30年度から制度化され、今年度から大館鳳鳴高等学校定時制課程でも始まりしました。高等学校の通級による指導がどのように行われているのか大館鳳鳴高等学校定時制課程の実践を紹介します。

## 1 重点目標

生徒の特性に応じた授業を通して、「分かる」「楽しい」授業づくりを目指し、教育上特別な支援を必要とする生徒に対して、卒業後の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するとともに、生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その特性に応じた指導を展開することにより、生徒の個性や可能性を伸ばす。

また、校内支援体制の構築を進め、通級による指導に対する教員の意識を高めながら、生徒のコミュニケーション能力や対人関係の向上を図る。

## 2 概要

〔実施形態〕 自校通級：大館鳳鳴高等学校定時制課程に在学する生徒が対象

〔実施期間〕 新生入生：10月～3月 在校生：4月～3月

〔時間や時間割〕 1週間に1時限（1単位）1年生は通級による指導が10月から始まるので1週間に2時限。現在は月曜日と金曜日に実施している。

## 3 対象生徒

- ・主に人間関係の形成やコミュニケーション等を苦手とする定時制課程の生徒とする。医師の診断の有無は問わない。
- ・対象人数は5名程度とし、2年生以上は前期からの開始を基本とするが、1年生にあっては生徒の状態によって指導を開始することがある。

## 4 指導内容

対象の生徒が自立と社会参加を目指し、学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するための指導の中で、主に特別支援学校の自立活動（人間関係の形成、コミュニケーション）の内容を中心とし、かつ将来の人生設計や卒業を見据えたキャリア教育の内容も取り入れる。

指導に当たっては、生徒が達成感、自己肯定感を得やすいスモールステップの目標を設定するとともに体験的学習を含めることとする。また視聴覚機器等の教材・教具を有効に活用しながら指導の効果を高め、生徒が主体的に学ぶことができるように配慮する。

なお、教科・科目の特性による学びにくさについても指導するが、教科の遅れを補充するための指導にならないよう留意する。



### (1) 曜日別指導内容

- ①年度初めに、自己チェックを行い自己理解や1年間でどういことを学んでいきたいか考え目標を立てる。
- ②月曜日は頑張りたいこと、やってみたいこと、前の週でできなかったことなどの確認。
- ③火曜日～金曜日に実践。
- ④金曜日に振り返りと次週がんばりたいことを考える。

### (2) 一時間の流れ

- ①本時の学習の確認
- ②今週がんばりたいこと・がんばったこと
- ③ソーシャルスキルトレーニング（SST）
- ④振り返りシートの記入

### (3) 具体例

- ・SST（校内生活を中心に題材設定）
- ・双六トーク
- ・ロールプレイ
- ・カードトーク



**地域支援担当【問い合わせ先】** 何でもお気軽に御相談ください。

比内支援学校 教諭（兼）教育専門監 藤田久美子  
特別支援教育コーディネーター 加藤 弘子

TEL0186-55-2131 FAX 0186-55-2132

